

## 米国農務省穀物等需給報告(2011年3月10日発表のポイント)

米国農務省は、3月10日(現地時間)、2010/11年度の11回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

〔2010/11年度の穀物全体の生産量は消費量を下回るが、大豆では上回る見込み〕

### 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 21億7,877万t(対前年度比 2.3%減)
- ② 消費量: 22億2,994万t(対前年度比 1.5%増)
- ③ 期末在庫量: 4億3,555万t(対前年度比10.5%減)  
期末在庫率: 19.5%(2.7ポイント減)

#### 【主な品目別の動向】

○小麦: ロシアをはじめとする旧ソ連諸国の干ばつ、EU西部の熱波等から世界の生産量は減少し、消費量を下回る。なお、豪州東部やアルゼンチンでは生育期の降雨に恵まれ増産見込み。

- ① 生産量: 6億4,760万t(対前年度比 5.1%減)…ロシア、カザフスタン、ウクライナ、カナダ等で減少、豪州、アルゼンチン等で増加
- ② 消費量: 6億6,302万t(対前年度比 1.6%増)…インド、ロシア、豪州等で増加、EUで減少
- ③ 期末在庫量: 1億8,190万t(対前年度比 7.8%減)  
期末在庫率: 27.4%(2.8ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点: 大きな変更なし。

○とうもろこし: 米国で単収の低下により、前年度に比べ生産量は減少、消費量はエタノール向けの需要増等から増加する見込み。米国の期末在庫率は5.0%と15年ぶりの低水準。世界の生産量は、中国の生産の回復等から史上最高となるも消費量を下回る見込み。

- ① 生産量: 8億1,378万t(対前年度比 0.2%増)…中国、カナダ等で増加、米国、ブラジル等で減少
- ② 消費量: 8億3,518万t(対前年度比 2.4%増)…米国、中国等で増加
- ③ 期末在庫量: 1億2,314万t(対前年度比14.8%減)  
期末在庫率: 14.7%(3.0ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点: ブラジルで単収増等により生産量を上方修正し、メキシコで霜害による単収減等から下方修正。

○米(精米): インドネシアでは水害、病虫害、パキスタンでは洪水の影響等で生産量は減少するが、インドの生産の回復や中国の増産等から、世界全体では増加し、消費量を上回る見込み。

- ① 生産量: 4億5,152万t(対前年度比 2.4%増)…インド、中国等で増加
- ② 消費量: 4億4,700万t(対前年度比 2.0%増)…インド等で増加
- ③ 期末在庫量: 9,878万t(対前年度比 4.8%増)  
期末在庫率: 22.1%(0.6ポイント増)
- ④ 前月からの主な変更点: インドで消費量を下方修正。

### 2. 世界の大豆需給の概要(見込み):

アルゼンチン等で豊作であった前年度を下回ることから世界の生産量は減少するものの、依然消費量を上回る見込み。なお、中国の旺盛な需要は継続する見込み。

- ① 生産量: 2億5,840万t(対前年度比 0.7%減)…アルゼンチン等で減少
- ② 消費量: 2億5,660万t(対前年度比 7.6%増)…中国、アルゼンチン等で搾油用需要増加、米国で減少。
- ③ 期末在庫量: 5,833万t(対前年度比 1.1%減)  
期末在庫率: 22.7%(2.0ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点: 大きな変更なし。

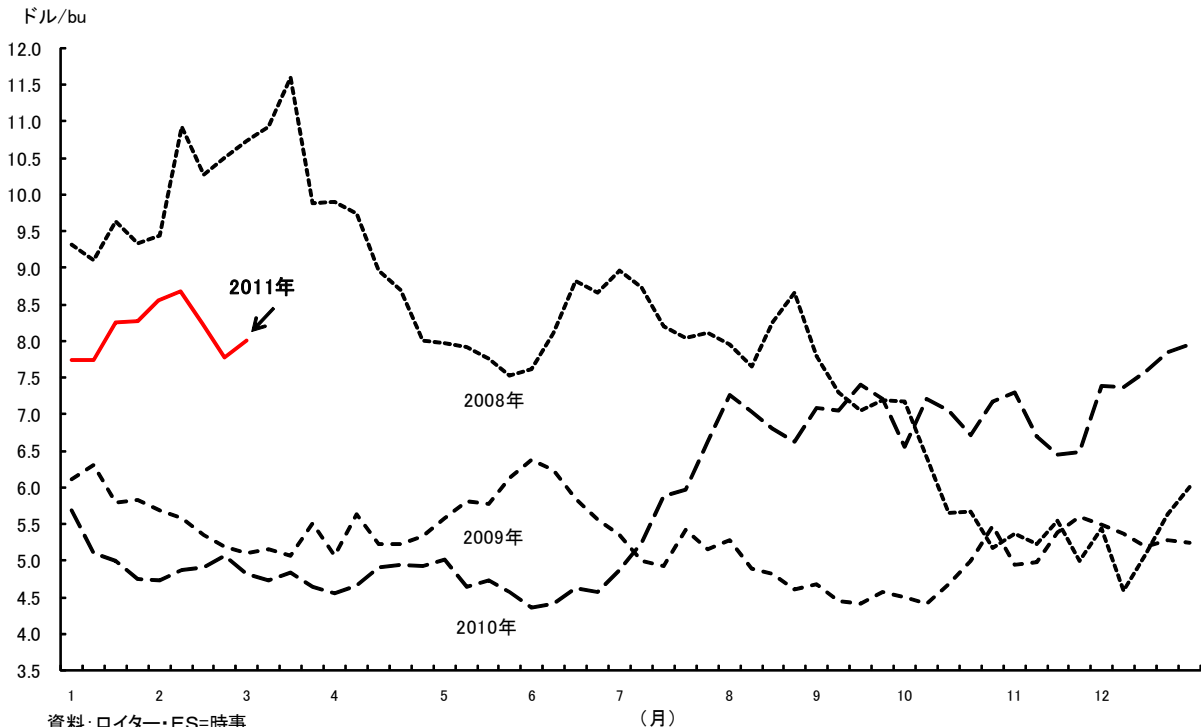
### 世界の穀物の価格動向(2011年)

- 小麦:8.01ドル/bu(前年同時期の価格:4.82ドル/bu)  
(価格は、シカゴ商品取引所における3月第1週末の期近価格である。)

2009年は、1月の需給報告による需給の緩和見通し等から値を下げた。4月以降は、米国大平原北部の春小麦地帯での降雨による作付けの遅れ等により値を上げたが、6月以降、米国の春小麦の良好な生育、冬小麦の順調な収穫、続いて春小麦の収穫が終盤を迎えたこと等から値を下げた。10月以降、米国中西部の低温・雨がちな天候による新穀冬小麦の作付け遅れから値を上げたものの、その後の作付けの進捗から値を下げ、11月以降は、ドルを中心とする外部市場の影響等から値が上下した。

2010年は、世界で生産量が消費量を3年連続で上回り、世界的に需給が緩和するとの見込みの中、春小麦の順調な作付け進捗、米国の冬小麦の収穫により値を下げたものの、6月以降、カナダの天候不順、黒海沿岸諸国の干ばつ、ロシアの穀物輸出禁止に向けた動き、それに伴う米国への輸出需要の集中等を反映し値を上げた。9月下旬には高値警戒感や豪州東部の豊作見込みから一旦値を下げたが、米国での土壌水分不足等による冬小麦の生育懸念で値を上げた。その後、大豆に追随し値を下げたものの、豪州東部の洪水による品質低下懸念、米国の大平原での乾燥懸念から8ドル付近まで上昇。

2011年1月に入り、米国では生産地での冬枯れ懸念、中東、北アフリカ諸国からの輸入需要、中国冬小麦地帯の乾燥懸念等によりさらに値を上げたものの、リビア等の政情不安による需要減退懸念から値を下げ、2011年3月現在、8ドル/bu付近で推移。



資料:ロイター・ES=時事  
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

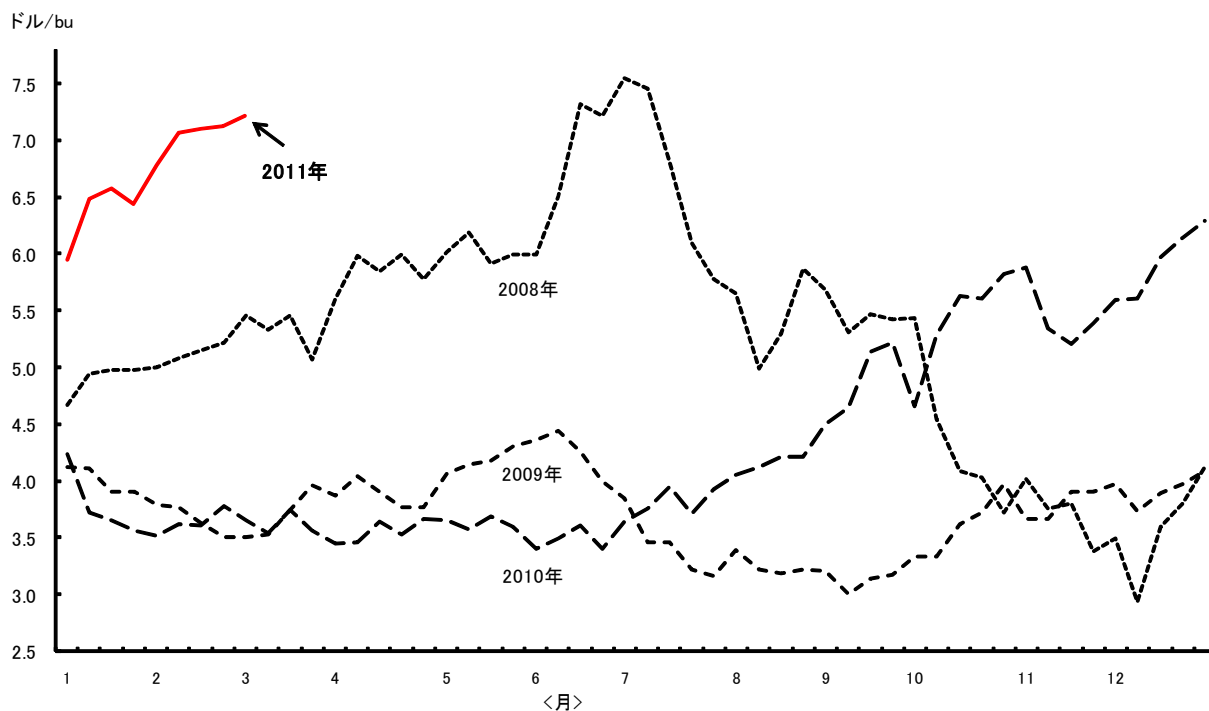
● とうもろこし:7.21ドル/bu(前年同時期の価格:3.65ドル/bu)

(価格は、シカゴ商品取引所における3月第1週末の期近価格である。)

2009年は、1月の需給報告による需給の緩和見通しや2月中旬以降の南米の降雨予想などから値を下げたが、3月以降、原油価格の上昇や米国中西部の降雨による作付けの遅れ、大豆の価格上昇につられたこと等から値を上げた。6月以降は、天候回復による作付け作業の進展、生育に望ましい天候の推移による米国の豊作見込みで値を下げた。10月以降、米国中西部の低温・雨がちな天候による収穫の遅れにより値を上げたのち、天候回復予測等から一時値を下げたものの、11月以降、ドルを中心とする外部市場の影響で値が上下し、12月以降は、米国産地での大雪による収穫遅れの懸念から値を上げた。

2010年は、米国及び南米の豊作見込みから値を下げた。その後米国の作付けが順調に終了し、生育に概ね良好な天候に恵まれたものの、中国の輸入需要や、米国の6月末の在庫報告と実作付面積報告が市場予想を下回ったこと、7月以降、小麦の騰勢や小麦の代替飼料としての輸出需要等を反映し値を上げた。10月以降米国の生産量が大幅に下方修正され、需給が引き締まったことから再び値を上げたが、大豆価格の低下に追随し値を下げた。その後、アルゼンチンでの生育期の高温乾燥懸念や米国の生産量がさらに下方修正されたこと等から値を上げた。

2011年2月以降、原油の高騰によるエタノール需要増加の見込み、低水準の在庫見通しから、さらに値を上げ、7ドル/bu前半で推移。



資料:ロイター・ES=時事

注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

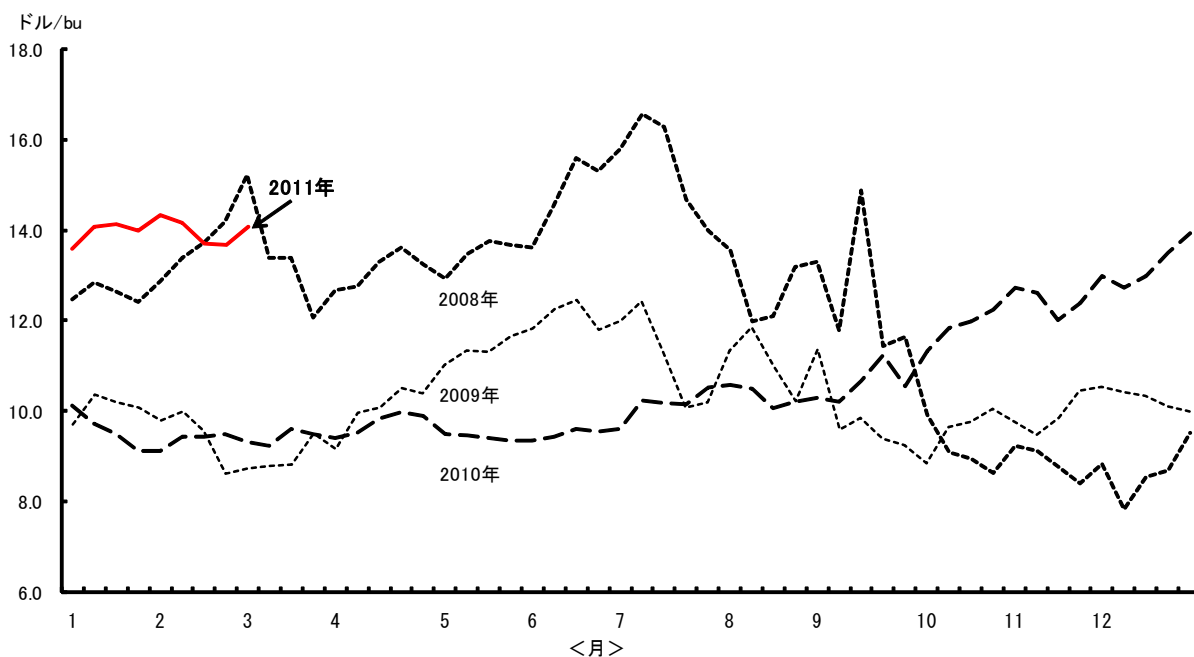
● 大 豆 : 14.08ドル/bu(前年同時期の価格:9.35ドル/bu)

(価格は、シカゴ商品取引所における3月第1週末の期近価格である。)

2009年は、1月の需給報告による需給の緩和見通しや2月中旬の南米の降雨予想等から値を下げたが、原油価格の上昇、3月末の米国農務省の農家作付意向面積報告が市場見込みを下回ったこと、アルゼンチンの干ばつによる減産から中国の輸入需要が引き続き米国に向かい、米国の期末在庫を圧迫したこと等から値を上げた。6月以降は、米国の作付け面積の増加見込みや、生育に望ましい天候で推移したこと、中国の備蓄在庫の取り崩し懸念、中国の旺盛な輸入需要等から値が上下したが、米国の豊作見込みが確実になるにつれ値を下げた。10月以降、米国中西部の低温・雨がちな天候による収穫の遅れにより値を上げたものの、10月中旬以降、天候回復予測等から値を下げた。11月以降、引き続き中国の旺盛な輸入需要等から値を上げたが、南米産地での良好な天候による豊作予測から値を下げた。

2010年は、米国、ブラジル、アルゼンチンで史上最高の生産量が見込まれ値を下げたものの、2月以降、米国産大豆の中国向けの輸出需要等に下支えされるとともに、7月以降は、小麦の騰勢等で値を上げた。その後米国の収穫の進展で一旦値を下げたが、中国向けの輸出需要が昨年を上回って旺盛なことやとうもろこしの騰勢に追随し値を上げた。その後11月上旬の中国の金利引き上げによる経済の減速懸念により一時値を下げたものの、アルゼンチンでの生育期の高温乾燥懸念、米国の期末在庫の下方修正等から値を上げた。

2011年2月以降、ブラジル等での大豆の豊作見込みから値を下げ、14ドル/bu前後で推移。



資料:ロイター・ES=時事

注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

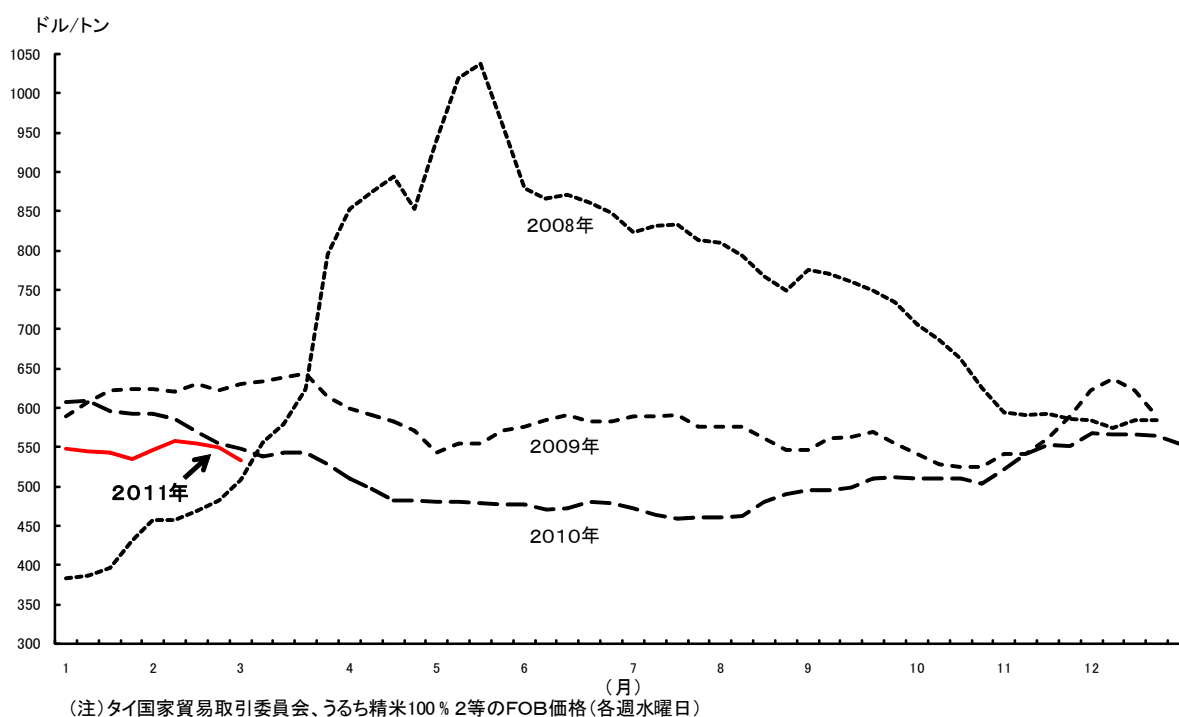
● 米:533ドル/トン(前年同時期の価格:548ドル/トン)

(価格は、タイ国家貿易取引委員会における3月第1水曜日のFOB価格である。)

2009年に入って、フィリピンの買付などもあり値を上げたが、ベトナムの最低輸出価格の引き下げ等により値を下げた。10月半ばにインドが干ばつ等による減産見込みから米の輸入関税を撤廃し、11月にはフィリピンによる台風被害による減産見込みに伴う過去最高規模の輸入入札の公告により値を上げたが、入札後値を下げた。

2010年1月以降、フィリピンの追加入札がなかったことや、世界的に生産の増加が見込まれる中、新たな輸入需要が乏しいこと等から値を下げたものの、8月以降パキスタン及びタイでの洪水被害、インドネシアの輸入見込み等から値を上げた。

2011年1月以降、タイ、ベトナムでの収穫進展、新たな輸入需要が見込めないこと等から、現在500ドル/トン半ばで推移。



(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年1月	2月	3月
113.15	107.49	113.26	116.89	114.35	100.64	92.85	91.16	90.28	90.52
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年1月
93.38	91.74	90.92	87.72	85.47	84.38	81.87	82.48	83.41	82.63
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
82.53									

注: 東京市場銀行間取引、直物相場終値平均(日本経済新聞)

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年1月	2月	3月
35.14	58.99	49.49	41.59	85.22	94.68	51.29	70.54	61.81	72.47
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年1月
70.65	74.19	63.69	50.97	58.88	60.07	53.96	51.93	52.89	51.28
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
50.43									

注: 米国ガルフー日本間(穀物、パナマックス級; World Maritime Analysis Weekly Report)

2007年4月よりパナマックス級のサイズ変更(65,000DWT→72,000DWT)

23年2月の数値は、23年3月4日現在の暫定値

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年1月	2月	3月
31.04	41.40	56.56	66.21	72.34	99.65	61.80	78.40	76.45	81.29
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年1月
84.58	74.12	75.40	76.38	76.67	75.55	81.97	84.31	89.23	89.12
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
88.58									

注: 内閣府「海外経済データ(平成23年2月)」

23年2月の原油価格(WTI)は「U.S. Energy Information Administration」の2月の価格。